

まちづくりミーティング開催結果概要

開催テーマ 学生に選ばれるまちづくり

参加者

桐生つながるラボメンバー 5名
桐生市長
報道機関 2名

日時: 令和8年3月26日(木) 午後4時00分～午後4時55分

場所: 桐生市役所 3階 第2特別会議室

「学生×桐生つながるプロジェクト」の
活動に参加して

感じたこと

学んだこと

1 開会

2 あいさつ

3 自己紹介

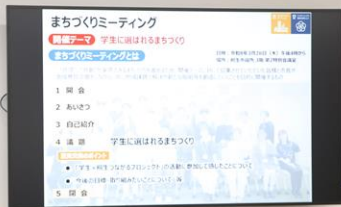
4 議題

学生に選ばれるまちづくり

意見交換のポイント

- 「学生×桐生つながるプロジェクト」の活動に参加して感じたことについて
- 今後の目標・取り組みたいことについて 等

5 閉会



(市長)

本日は開催テーマを「学生に選ばれるまちづくり」とし、皆様のご意見を伺い、共に考え、新たな取組を創造してまいります。

意見交換のポイント

- 「学生×桐生つながるプロジェクト」の活動に参加して感じたことについて
 - 今後の目標・取り組みたいことについて 等
- とさせていただきます。

まずは、このプロジェクトの目的について、改めて確認させていただき、その後に皆さんがどのような活動に取り組んでこられたか報告いただきたい。

(市長より「学生×桐生つながるプロジェクト」の目的等について説明)

※資料参照



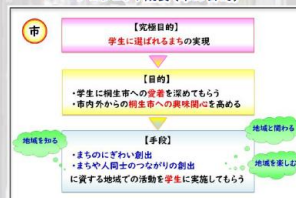
学生×桐生つながるプロジェクト

『女性・若者から選ばれる桐生市提言書』に基づき取組の一つです！

学生×桐生つながるプロジェクトとは **令和7年1月スタート**

- 「女性・若者から選ばれる桐生市提言書」を踏まえ、本市が学生に選ばれるまちづくりを進めるに当たり、学生が本市を知り、関わり、楽しみながら地域での活動を行うことで、本市に対する愛着を深めてもらうとともに、その活動をPRすることで市への興味関心を高めるため実施するものです。

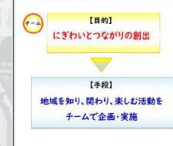
プロジェクト概要(市の目的)



学生×桐生つながるプロジェクト

『女性・若者から選ばれる桐生市提言書』に基づき取組の一つです！

チームの目的と手段



令和7年度メンバー(令和8年1月1日時点)

- 群馬大学大学院理工学部3名、群馬大学工学部27名、共愛学園前橋国際大学1名、高崎経済大学1名、足利大学1名
- 合計 5 機関 33 名

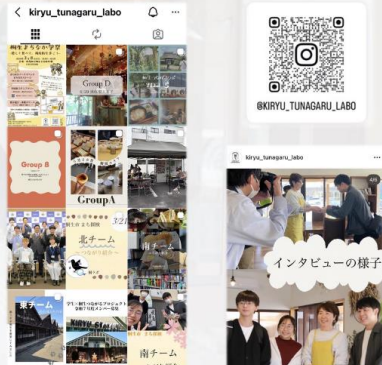
「桐生つながるラボ(チーム名)が、桐生市のにぎわいつながりを創出!!」

(桐生つながるラボメンバーより活動実績について説明)

※資料参照



チームの
取組を
SNSで
紹介



インタビューの様子



実施年月
2025.3
2025.6

市内を
エリア分



グループごとに



まち散策

きりゅうセタまつり出展

桐生つながるラボの活動を紹介します。展示や、子ども向けワークショップを開催



企業・団体等からの
コラボレーションのオファー

“にぎわいどつながりの創出”に寄与する活動

オファーの依頼のあった企業・団体等

- 桐生飲食店組合
- 富士スバル株式会社
- 桐生商店連盟協同組合
- ミニきりゅう実行委員会
- ファッションオープンアトリエ&ボードゲームカフェ「ふふふ」





(市長)

様々な活動をしていただいているということを改めて感じることができた。桐生まちなか学祭では、自分も参加したが、学生の皆さんが商店街の店主の方々と親密に話しており、深く関わっていただいているおかげだと嬉しく思う。メンバーの活動の開始時期や関わった取組などはそれぞれ異なると思うが、「これまでの活動に参加して感じたことや学んだこと」について聞かせていただきたい。



(意見)

様々な活動に参加したが、全体を通して思ったことは、多くの店主の方々と触れ合う機会があり、店主の方々の想いや開業までに至った経緯を伺い、人と人とのつながりや縁などがあることを感じた。

この活動を通して初めて知ったお店も多く、お店の魅力も感じることができ、活動以外にも普段から通うことも増えてきた。店主の方々にも自分のことを覚えていただけたのはこの活動のおかげであるため、取り組んで良かったと思う。

また、お店の方が取材のときも緊張をほぐすために工夫していただいたり、本当に優しく接していただいた。



(市長)

リラックスした中で取材できたことで、お店ができた成り立ちなども聞き出し、親密な関係を築けたのだと思う。

それとは逆に、もう少しこうすれば来客が増えるのではないかなど感じたことはなかったか。

(意見)

やはり認知度が一番の課題だと思う。自分自身この活動を通して知ったお店も多かったため、魅力のあるお店が知られていないのはもったいないと思う。



(意見)

プロジェクトスタート当初から活動し、まち散策で行ったことのない店舗を訪れ、桐生の魅力を新発見することができた。

印象に残っていることは、企業・団体からのコラボレーションのオファーで、料理や店主の趣味・目標などをまとめたカードの制作に携わったが、1軒あたり1時間以上取材し、単なるメニューだけではなく、店主の人柄や店主の背景なども調査するというので、大変良い活動だと感じた。

自分は桐生出身だが、普段何気なく通っていたお店も親近感が湧き、店主からこだわりの部分などを取材することにより、味の違いを感じたり、お店の印象も変わった。



(市長)

店主の方も皆さんの熱心さや熱意が伝わり、会話も弾んだのだと思う。学生の皆さんが桐生の方々とそのような話ができただということは非常に嬉しく、これからも活動に生かしていただきたい。

(意見)

まち歩きでは、桐生のお店をたくさん調べて、その中から実際に訪れるお店を選び、店主の方の話を伺ったが、これまでとは見方が変わった。桐生の人には桐生が大好きで、桐生には良いお店で温かい人がいっぱいいるのに、知っている人が少ないというのは勿体ないと思う。「桐生つながるラボ」のInstagramにおいても、どのようにしたら多くの人にこの魅力がストレートに伝わるのか、拡散方法など伝えることの難しさも感じた。



(市長)

実際に店主の方々と話をしてみても、その人となりや仕事に対する想いなどにより、その発信の仕方も異なってくる。店主の想いを伝えられれば見ている方に感動を与えられると思う。



(意見)

チームの活動では、まち散策もしたが企業等からのオファーでミニきりゅうへの協力やお店の紹介カードの制作などに携わり、桐生出身でも今まで知らなかった色々なお店を知ることができた。

今後は、店主の抱える悩みなどの解決のため、自分たちにできることが何があるのか考える機会も増えてくると思う。

桐生市は他のまちと比べてたくさん新しいことに取り組んでいると思う。桐生市に移住して新店舗を開業している方も多く、そのような方に話を聞いてみると、桐生市にしかない魅力を感じたということで、何か引き付けるものが桐生市にはあるということを考えさせられた。



(市長)

ミニきりゅうでは一生懸命仕事をしていただいております、子どもたちからも人気があるため、次回もぜひ関わっていただきたい。

先日、清流中学校の生徒が桐生の魅力を探求した成果の発表を聞いたが、移住者で起業する方が高崎市や前橋市に比べ圧倒的に多いという例を挙げて発表していただいた。桐生では店舗開業や起業したいという方をターゲットに移住定住のワンストップ相談窓口「おすびすお桐生」を設置して対応しているが、その効果が出て、ピンポイントで桐生で働きたいという方々が移住していただいているのではないかと思います。

そのような動きを感じていただいたのは大変嬉しく思う。



(意見)

1年活動してみて、やはり桐生の人々の温かさを一番感じた。

桐生まちなか学祭のイベントでは、ステージのリーダーとして“店主の主張”など、桐生市の魅力などを発信していただくこと色々と企画して取り組んだが、自分が日頃お世話になっているtsukulunや消防団の方々にも来場していただいた。

今回の活動を通じて人とのつながりが生まれ、コミュニティも広がり、より強固なものになったと思う。



(市長)

桐生まちなか学祭では、学生の皆さんが色々と計画し、私たちには中々ない発想で盛り上げていただいた。

皆さんが店主の方々に投げかけ、刺激を作っていただいたおかげで、店主の方々も新しい気付きみたいなものが出てきたと思うので、大変良いことだと思ふ。



(市長)

皆さんの話を聞かせていただき、大変嬉しく、感動している。
もう一つのテーマの「**今後の目標や取り組みたいこと**」について、皆さんの意見を伺い、今後どのような方向性で様々な活動に取り組んでいったら良いか参考にさせていただきたい。



(意見)

イベント開催に当たり、やはり集客が課題であり、桐生まちなか学祭では開催準備を始めるのが少し遅れたということもあるが、スタンプラリーも応募者が想定より少なく、規模を縮小して実施した。

大学のホームページや報道機関にも依頼し、周知を図ったものの期待する集客ではなかったため、イベントの開催準備を早期に行い、広報活動により力を入れていきたい。

今後取り組みたいことは、やはり桐生の魅力は、昔ながらのものが残っている部分があるため、重伝建地区を絡めた活動などに取り組んでいきたい。



(市長)

桐生まちなか学祭については、初めての開催としては十分盛り上げていただいたと思う。予約制スタンプラリーにも参加したが、参加者の数よりも訪れたお店と皆さんとの関わり方が深く印象に残っており、良い関係性を築いて活動されていると感じた。

この素晴らしい取組の魅力を多くの方に感じてもらうためにも、集客力を上げることは大切なので、我々も一緒に検討していきたい。

また、重伝建地区に対する取組は大変嬉しく、この取組の目的が「学生に選ばれるまち」を目指すということではあるが、観光面で目指すスタイルは文化観光であり、歴史的価値を生かした観光スタイルを進めていきたいと思っている。

そのような中、重伝建地区に来ていただいた方に、学生目線による紹介やまちの案内をどのようにしていただけるか非常に楽しみにため、まずは皆さんに重伝建地区を知っていただき、皆さんの言葉で案内したり、他にも何か取り組むことができるとありがたい。

(意見)

自分たちの活動を多くの方に知っていただくためには、桐生まちなか学祭や企業・団体からのオファーなどの活動を継続して取り組むことが重要であると思う。

また、まち散策についても訪れる店舗数を増やしたいと思っているが、これまでは店舗に関わることであったため、市民や消費者側の方々にも関わってきたい。

その他、今年度は七夕まつりにブースを設けたが、今度は桐生八木節まつりに「桐生つながるラボ」のブースを出してみたいと考えているため、力を入れて取り組みたい。



(市長)

提案のあった桐生八木節まつりで学生のブースについて、そのブースに全国から学生が集まるというところまで広がると面白い取組になる。

また、活動を継続することについては、皆さんもゆくゆくは卒業を迎えなくてはならず、その中でいかに「桐生つながるラボ」の魅力を新入生などに伝え、メンバーを募ることができるか、楽しく仲良く活動しているチームの取組をより広めていただきたい。

消費者側に関わることにしても本当に大事であり、店舗の方々も消費者側の意見も参考になると思うため、その点もぜひ進めていただきたい。



(意見)

大学の学園祭のときに着物を着させていただいたが、その際は全身しっかり揃えるのではなく、少しカジュアルにスカートやブーツなどを合わせて、動きやすい形で着させていただいた。それがすごく楽しく、綺麗だったため、時々街中を着物で歩いている方も見かけるが、みんなが普段から着られるような機会がもっと増えるといいと思う。

着物は着たいけど中々気軽に手を出せるものではなく、着られない方が沢山いると思うため、「女性から選ばれるまち」を目指すためにも、私たちが気軽に着物でまち散策できることをPRすることで、着物を着てみようという方も増えるのではないかなと思う。

(市長)

桐生は正に和の文化で栄えた歴史があるので、若者が着物に関心を持っていたくことについては、大変良いことだと思う。

昔は着物を着るとなると、パーマ屋・着付け屋・着物屋・小物屋など分業されており、それぞれが繁栄していたが、時代の流れて着物を着る機会が少なくなり、分業も成り立たなくなってきたので、気軽に着物を着られるような従来のスタイルとは異なる形で着物を着る文化を皆さんに持っていただくのは非常に大事だと思う。

また、着物で群馬大学の制服を作ることに大学へ提案させていただいたことがあり、実現には至っていないが、入学式や卒業式に着物や袴を着たり、普段は浴衣などを着るなどして着物を着る機会を増やすことや、学園祭でも和を感じるコーナーを設けるなどについて、学生からも先生方へ提案していただければありがたい。



(意見)

今後の目標について、反省点も含め、やはりイベントを開催するに当たっては、SNSなどで周知をしているもののフォロワーも多くないため、私たちの活動を知っていただくためにも認知を高めることは本当に必要だと思う。

また、私たちが主体となってイベントに取り組むだけではなく、既に市内で開催されているイベントに参加して何かお手伝いをさせていただいたり、学生のコーナーを設けて活動内容を周知して認知を高めていくことがまずは重要だと思う。

チームのメンバー数は多くいるものの、活動には中々メンバーが集まることはできず、一部のメンバーで取り組むこともあったが、桐生まちなか学祭では、多くのメンバーで一つの大きなイベントに向かって活動することができた。

今後もチームが一つとなり目標に向け取り組み、同じような大きなイベントを開催したいと思う。

(市長)

みんなで一生懸命考えて作り上げたイベントは、実施後の達成感や満足感が高いと思うため、ぜひ取り組んでいただきたい。

やはり活動を知っていただくことは重要であり、周知を図ることにより何か面白い取組をしていけば、一緒に活動してみたいと思っていただいたり、特例として中高生も一緒に活動するなどの輪が広がれば、プロジェクトの幅も広がると思う。

取り組んでいる内容をバージョンアップしていく中で、楽しくなければ長続きしないため、辛いことなどは排除しながら積み重ねていけば活動も継続し、メンバーもついてくると思う。

イベント開催に長けてる市職員もいるため、相談をいただきながら、一緒に取り組んでいきたいと思う。

(意見)

これまでの取組の中で、やはりイベントの集客が課題だったと思うため、私たちの活動を知らない方に伝わるようにいかに発信していくかが重要であると感じた。

また、外への発信だけではなく、活動内容を一番伝えるべきなのはチームメンバーであり、メンバー間での情報共有が大事で、企業とのコラボレーションによる活動や七夕まつりの出店では、中々スケジュールが合わず、限られたメンバーでの活動となってしまったため、他のメンバーにも周知して、魅力があり、楽しく活動していることを知っていただければ、長く続けられると思う。

取り組みたいことについて、色々なイベントへの参加や企業からのオファーなどへの取組はもちろん大事ではあるが、主催イベントを開催することでチームの色を出すことも新しい取組を進めていく上では重要であると思う。

先ほど話に上がった着物や重伝建地区の観光案内の件については、自分たちでも取り組めるのではないかなと思うので、大規模な取組でなくても、まち散策の取組と関連して自主的なことに取り組んだ方が、情報を発信する上でもより熱も入るのではないかなと思うので、今後の活動として検討していきたい。



(市長)

確かに学生の皆さんが主体で行うイベントは重要であるということと、市内で既に行政が携わっているイベントもあれば、色々な団体が同時多発的にイベントを開催していることが桐生の特徴でもある。そのようなイベントが緩やかにつながって、それぞれの活動に参加することにより、今までよりも取組に輝きを放つことができるような関わり方ができると良いと思うし、色々な方たちと関わりを持つことにより、また違った意味で桐生の魅力を感じていただければと思う。

これまでの活動に関しては、本当に感謝しており、引き続きみんなで力を合わせて取り組んでいただきたい。



(市長)

様々な意見を聞かせていただき大変参考になった。

今後も「桐生つながるラボ」の取組を発展させていくためには、皆さんの意見等も参考にさせていただきながら、行政は行政サイドで様々な提案をしていきたいと思う。

また、皆さんも色々新しいものを見つけたり、何か考えていただいたり、引き続き取り組んでいただきたい。

今回のプロジェクトのように学生が主体的にまちづくりに関わっている自治体は少なく、皆さんの取組は先駆的で他の自治体からも注目されていると思うため、取り組んでいることに誇りを持っていただき、今後も進めていただきたい。

私たちも皆さんが考えたことをしっかり聞く体制は整っているため、何でも相談していただき、皆さんと一緒に作り上げていければ思う。このプロジェクトを継続していくためには、学生の皆さんの目線で色々な方々に声をかけていただく必要があると思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

